

I 2012年度認証評価 努力課題に対する改善計画（報告）書

No	基準項目	4. 教育内容・方法・成果
1	大学基準協会からの指摘事項	大学院博士後期課程において、人文科学、国際文化、経済学、法学、政治学、社会学、経営学、政策科学、工学、情報科学の10研究科は、コースワークを適切に組み合わせたカリキュラムとはいえないので、課程制大学院の趣旨に照らして、同課程にふさわしい教育内容を提供することが望まれる。
	評価当時の状況	大学院博士後期課程は、少人数であったため、コースワーク、リサーチワークを明確に区別せず、専門性を有する担当教員が個別に対応して行ってきた。
	改善計画・改善状況	2013年度より、コースワークの問題を重要課題と捉え、博士コースワーク科目設置の検討を開始してきた。2015年度には、専攻主任会議を中心とした博士コースワークの具体化を進め、コースワークを専門分野のリサーチワークを補完する科目として位置付け、具体的には、研究課題の発掘・推進・解決に関する様々な視点からコースワーク科目の内容を吟味・決定し、2016年度の本科目の新設・実施を決定した。
	改善状況を示す具体的な根拠・データ等	理工学研究科専攻主任会議議事録

II 2015年度大学評価委員会の評価結果への対応

【2015年度大学評価結果総評】

全体として簡潔に必要な点検が行われており、昨年度の大学評価委員会の指摘に応じて、必要な箇所が確実に改善されているという印象を持つ。一方、各所に指摘した通り、基本的な目標、3つのポリシーの研究科全体版と各専攻版が煩雑である上、媒体により記述がマチマチである点は改善されるべきものと思われる。

また、グローバル化推進について、2014年度に一定の評価が得られたとのことであるが、現状分析シートからはその後の取り組みに関する記述が希薄に感じられるため、今後は取り組みを推進する意気込みを示していただくと良いと思われる。

【2015年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】（～400字程度まで）

理工学研究科大学院博士後期課程におけるコースワークに関する指摘事項については、2013年度より、コースワークの問題を重要課題と捉え、博士コースワーク科目設置の検討を開始してきた。2015年度には、専攻主任会議を中心とした博士コースワークの具体化を進め、コースワークを専門分野のリサーチワークを補完する科目と位置づけ、具体的には、研究課題の発掘・推進・解決に関するさまざまな視点からコースワーク科目の実施内容を吟味・決定し、2016年度に本科目の新設を決定した。

グローバル化推進については、本研究科は、本学独自の大学院生海外研究発表補助制度を学内において最も有効に活用してきた。大学院教育においては、世界レベルの一流研究者育成を目指すべき目標として掲げ、外国語コミュニケーション能力とグローバル視野修得を目的として、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨している。近年の重点事業として、理工学研究科は情報科学研究科と協働して、IIST (Institute of Integrated Science and Technology) 総合理工学インスティテュートの設置を果たした。設置準備委員会を中心として、新規開設のための管理運営、学生募集等の協議を重ね、今年度2016年秋期設置に向けて最終段階の準備作業を進めている。

III 自己点検・評価

1 教員・教員組織

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

【教員像および教員組織の編制方針】（2011年度自己点検・評価報告書より）

工学研究科では、各専攻分野の高度の専門知識を有すると同時に、幅広い教養を持ち、地球規模でものごとを考える教員であることが期待される。専門分野の教育・研究を通して学生に自己探求心を持たせる教員であることが要求される。

工学研究科は、学部・学科の上に立った研究科であるので、各専攻はそれぞれの学科の延長線上にあり、教員は当該分野における高い研究能力とともに教育にも優れた資質を合わせ持つことが要求される。しかしながら現在は工学部の学部再編成により、2007年度デザイン工学部の設置、さらに2008年度理工学部と生命科学部の設置により、各専攻科教員の所属は過渡期にある。理工学部および生命科学部が完成年度を迎えた今、2013年度に現在の工学研究科を改組により理工

学研究科（仮称）として学科と専攻の対応関係を整備し、教員組織の充実を図るべく検討を進めている。

1.1 学部等として求める教員像および教員組織の編制方針を明確にしているか。

①採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていますか。

はい  いいえ

【根拠資料】※教員に求める能力・資質等を明らかにしている規程・内規等の名称を記入。  
・理工学研究科内規（2013年4月1日より施行）

②組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていますか。

はい  いいえ

【研究科執行部の構成、研究科内の基幹委員会の名称・役割、責任体制】※箇条書きで記入。  
・機械工学、電気電子工学、応用情報工学、システム理工学（創生科学系・経営システム系）、応用化学、生命機能学（生命機能学領域・植物医科学領域）の6専攻および系・領域の教育・研究を総合的に議論する各専攻主任・副主任から構成される「専攻主任会議」を設置している。  
・研究科長が研究科の責任を担うこととしている。  
・各専攻は、各専門領域の教育研究を組織的に運営し、各専攻主任の責任下において各教員が当該専攻の教育研究の様々な役割を担うこととしている。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。  
・特になし

1.2 教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。

①研究科（専攻）のカリキュラムにふさわしい教員組織を備えていますか。

はい  いいえ

（～400字程度まで）※教員像および教員組織の編制方針、カリキュラムとの整合性等の観点から教員組織の概要を記入。  
理工学研究科は、研究科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを達成可能な教員構成を実現している。このため、研究科は、十分な研究能力を有し、かつ、研究科の理念・目的に沿った人材教育を実践可能な教員を適所に配置している。理工学研究科は、各専攻分野に、優れた教育・研究実績を備えた教員を配置し、各専攻のカリキュラムの実施・運営に相応しい教員組織を実現している。今後、教育研究の質保証・質向上を実現するために、必要な専攻分野に、増員人事等による教員組織の一層の充実を図る。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。  
・特になし

2015年度研究指導教員数一覧（専任）

（2015年5月1日現在）

研究科・専攻 ・課程	研究指導 教員数	うち教授数	設置基準上必要教員数	
			研究指導 教員数	うち教授数
機械・修士	12	11	8	3
電気・修士	11	9	8	3
応情・修士	11	8	8	3
システム・修士	24	20	11	3
化学・修士	10	8	5	3
生命・修士	15	14	6	3
修士計	83	70	46	18
機械・博士	11	11	4	3
電気・博士	10	9	4	3
応情・博士	8	8	4	3
システム・博士	20	19	4	3
化学・博士	10	8	4	3
生命・博士	15	14	4	3
博士計	74	69	24	18
研究科計	157	139	70	36

研究指導教員1人あたりの学生数：修士4.54人、博士0.07人

②特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していますか。

はい  いいえ

【特記事項】（～200字程度まで）※ない場合は「特になし」と記入。

- ・新規採用に際しては、6年一貫教育体制のもと、基礎となる学部学科との調整により、年齢構成に配慮して採用を行う。

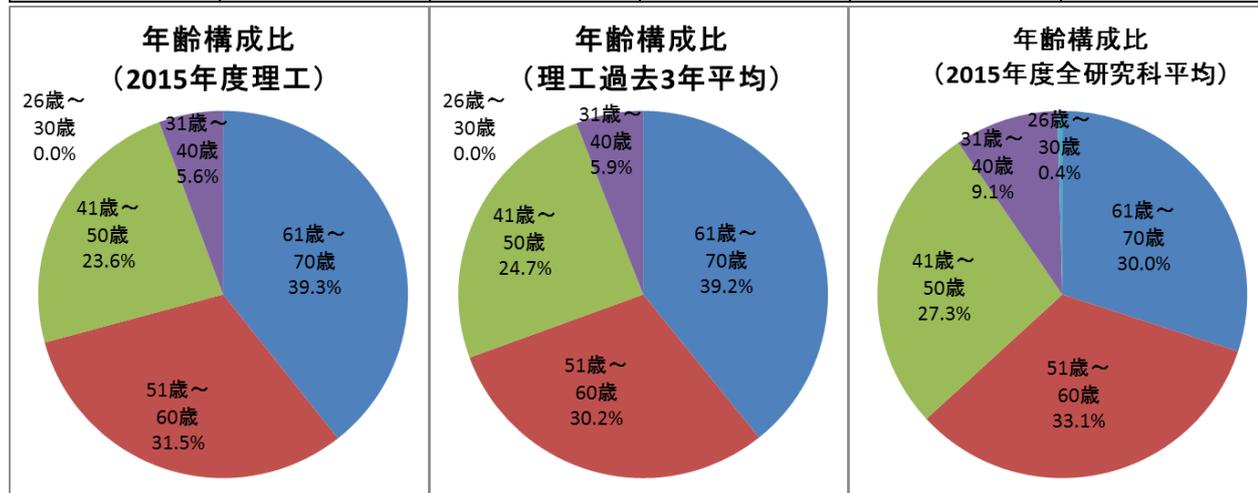
【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

年齢構成一覧

(5月1日現在)

年度\年齢	26～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61～70歳
2015	0人	5人	21人	28人	35人
	0.0%	5.6%	23.6%	31.5%	39.3%



1.3 教員の募集・任免・昇格は適切に行われているか。

①大学院担当教員に関する各種規程は整備されていますか。

はい  いいえ

【根拠資料】※大学院担当教員に関する規程・内規等の名称を箇条書きで記入。

- ・理工学研究科教員資格内規

②規程の運用は適切に行われていますか。

はい  いいえ

【教員の募集・任免・昇格に関する学部教授会との連携体制】※教員の募集・任免・昇格に関し、学部教授会とどのような連携が行われているか概要を箇条書きで記入。

- ・理工学研究科の教員資格審査については、研究科教員資格内規に沿って研究科専攻主任会議で精査し、研究科教授会において審議・承認する手続きを適切に実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・特になし

1.4 教員の資質向上を図るための方策を講じているか。

①研究科（専攻）内のFD活動は適切に行われていますか。

A  B  C

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

- ・理工学部・生命科学部のFD・質保証委員会と連携し、学部・研究科の協働によるFD活動を進めている。

【2015年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

- ・全学の「FD推進センター」で実施される授業アンケート内容を教員にフィードバックし、授業の質向上に活用している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・FD推進センター報告

②研究活動を活性化するための方策を講じていますか。

A  B  C

【研究活動活性化の取り組み】※箇条書きで記入。

- ・教育研究補助金・学生研究補助金を継続して実施している。
- ・教員・学生の受賞報告と広報を学内外に対して継続して実施している。

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

- ・研究科教授会資料

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院理工学研究科の教育研究力強化を実現するために、法政大学グローバル化事業と協働し、教育研究力を高める有効施策を実施する。</li> <li>・IIST (総合理工学インスティテュート) 設置に向けて、設置準備委員会を中心とする運営により今年度新規開設を果たす。</li> <li>・研究力強化を推進するために、教育研究補助制度の回復を求める。</li> </ul>
--

【この基準の大学評価】

理工学研究科の教員の採用・昇格、募集・任免の基準、また教員組織については、2013 年度に定められ運用されている理工学研究科内規において明らかにされている。ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー達成を狙いとした教員組織の整備が進められている。教員の年齢構成を配慮した採用が行われているものの、未だ高い年齢層がやや厚い現状がある。FD 活動、研究活動活性化への取り組み内容は標準的なものであり、確実に実行されていると評価できる。
--

2 教育課程・教育内容

【2016 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【教育課程の編成・実施方針】</b>	
理工学研究科では、その理念・目的、教育目標および学位授与の方針にもとづいた以下の教育課程の編成・実施方針を定めている。	
修士課程においては、本格的な研究活動を始める基礎的ポテンシャルを高めるために、コースワークによって体系的にカリキュラムを組み、必要に応じて最先端の教授を客員あるいは非常勤として招聘し講義を行う。	
修士課程および博士後期課程のリサーチワークにおいては、主に所属する研究室の指導教員による学会発表および論文発表を目指した個別指導および進捗報告会を行い、かつ最終審査である論文審査発表会により、評価の公正を保ち、研究・論文の質の向上を図る。	
なお、各専攻分野に基づいて設置されている授業科目を、研究科要項に掲載されている「履修モデル」を参考に履修することを推奨している。	
2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	
①修士課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B C
(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。	
修士課程においては、コースワークによって研究活動実施に必要な研究基礎力を修得させるために、体系的カリキュラムの編成・実施と、加えて、最先端研究分野の教員・研究者を客員研究員制度を活用して招聘し先端研究開発の高度教育を実施している。リサーチワークについては、研究室指導教員のきめ細かな個別研究指導、および研究室ゼミのグループミーティングを通じた研究指導が適切に実施されている。各専攻の学位審査は、学位審査基準に沿って公正に実施されており、研究・論文の質向上が図られている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
②博士後期課程において授業科目を単位化し、修了要件としていますか。	はい いいえ
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。	
・特になし	
③博士後期課程においてコースワーク、リサーチワークを適切に組み合わせ、教育を行っていますか。	A B C

か。	
<p>(～400 字程度まで) ※コースワーク、リサーチワークを組み合わせた教育課程の概要を記入。</p> <p>2013 年度よりコースワーク実施を重要課題と捉え、博士コースワーク科目設置の検討を開始してきた。2015 年度、専攻主任会議を中心とした検討により、専門分野のリサーチワークを補完し、研究課題の発掘・推進・解決に関するさまざまな視点からのコースワークを実施する科目を 2016 年度に新規開設することを決定した。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科専攻主任会議議事録</li> </ul>	
2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。	
①専門分野の高度化に対応した教育内容を提供していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>(～400 字程度まで) ※学生に提供されている専門分野の高度化に対応した教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。</p> <p>基礎教育研究実験と平行して、特に新しい研究分野の展開・推進に必要な教育として、セミナー・講演会を開催し、新規研究に積極果敢に挑戦し取り組む教育課程を提供している。高度な専門分野の教育を実施している。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
① 大学院教育のグローバル化推進のための取り組みをしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> A B C
<p>(～400 字程度まで) ※大学院教育のグローバル化推進のために行っている取り組みの概要を記入。</p> <p>本学独自の大学院生海外発表補助制度および論文校閲制度については、実績として、理工学研究科が学内において最も有効に活用してきた。大学院教育においては、世界で活躍できる一流研究者の育成が必須かつ急務であり、外国語コミュニケーション能力とグローバル視野を育成するために、海外留学、海外インターンシップ参加、国際会議発表を強く推奨している。日欧産業協力センター(経産省)主催のヴルカヌス国際インターンシップに積極参加しグローバル人材の育成に取り組んでいる。重点事業として、IIST (総合理工学インスティテュート) の新規開設に、理工学研究科と情報科学研究科が協働して取り組んできた。設置準備委員会を中心として、管理運営、学生募集等について協議を重ね、今年度 2016 年秋期設置に向けて最終準備を進めている。</p>	
<p><b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1) および(2) の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院強化に必須な、国際会議発表および論文発表の研究助成制度の財政基盤弱体化が、将来の大学院弱体化をもたらす危険性を危惧している。</li> <li>・研究助成制度の財政基盤回復・強化の施策提案を今後の課題として考える。</li> </ul>
---

**【この基準の大学評価】**

<p>理工学研究科修士課程におけるコースワーク、リサーチワークについては、これを含む体系的なカリキュラム編成や研究室のゼミにおけるグループミーティング等を通じ、適切に組み合わせて実施されている。従来課題とされていた博士後期課程におけるコースワークに関しては、2015 年度までにその充実に係る検討が進められ、2016 年度より関連科目が設置された。</p> <p>セミナーや講演会の開催を通じて、専門分野の高度化に対応している一方、大学院教育のグローバル化に関してはこれまでの十分な実績があるとともに、2016 年度秋に IIST (総合理工学インスティテュート) が設置予定であるなど、高いレベルでの施策が展開されている。</p>
--

3 教育方法

【2016年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 能力育成の観点から教育方法および学習指導は適切か。	
①学生の履修指導を適切に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【履修指導の体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理工学研究科ガイダンスを開催し、大学院理工学研究科要項等、履修・研究実施に必要な情報を周知し、個別に研究科長・大学院事務局が修了要件・勉学姿勢を説明している。</li> <li>・所属研究室の指導教員は適宜・適切に履修および研究指導を実施している。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②研究科（専攻）として研究指導計画を書面で作成し、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【研究指導計画の明示方法】※箇条書きで記入（ここでいう「研究指導計画」とは、個別教員の研究指導計画を指すのではなく、研究科としての研究指導を指す（学位取得までのロードマップの明示等））。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究科共通の「修了までのスケジュール」及び各専攻における学位取得に至る「履修モデル」を大学院理工学研究科要項に明記し、ガイダンスにおいて学生に周知している。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】※研究指導計画が掲載された文書・冊子等の名称を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院理工学研究科要項</li> </ul>	
③研究指導計画に基づく研究指導、学位論文指導を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>(～400字程度まで) ※組織的な研究指導、学位論文指導の概要を記入。</p> <p>各教員が担当する「特論」「特別研究」「特別実験」等の講義・実験科目について、研究指導・学位論文作成指導を行い、国際学会発表および国内外論文誌投稿を実施できる研究能力修得を可能にするきめ細かな研究指導を行っている。</p>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。	
①シラバスが適切に作成されているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：執行部（〇〇委員会）による全シラバスチェック等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB シラバスシステムを活用し、シラバスの作成・校正を教員に依頼し、毎年度、適宜適切にシラバスの内容の検証を実施している。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
②授業がシラバスに沿って行われているかの検証を行っていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい いいえ
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入（取組例：後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は、授業アンケート意見などをフィードバック作業に活用している。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。	
①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【確認体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WEB シラバスに成績評価の方法・基準を明示し、公平性を確保している。学部同様に、学生からの評価に関する問い合わせに対しては、事務局と担当教員は適切に対応し、対応結果を担当部署に報告することとしている。</li> </ul>	
<p>【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>	
3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。	
①教育成果の検証を研究科（専攻）ごとに定期的に行っていますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<p>【検証体制および方法】※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各専攻主任、各教員が実施する試験・レポートによる成績評価を把握し、各専攻教室会議において教育成果の検証を実施している。</li> </ul>	

<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
<b>【利用方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・各教員は、学生からの重要な意見情報として活用している。質保証委員会は、教育の質向上の重要資料として活用している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (必須項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・国際会議発表、論文発表、受賞などの研究力強化に必要な研究科の統計データを作成する。
--

**【この基準の大学評価】**

理工学研究科ガイダンスによる履修指導ならびに各指導教員によるきめ細かな研究指導が行われ、毎年度検証されている。評価基準が明記されている Web シラバスが導入され、各専攻教室会議において教育成果が検証されている。各教員は授業改善アンケートを活用し、またこれらを質保証委員会で体系的にチェックするなど、教育方法に関する仕組みがつけられ、実行されている。
---

4 成果

**【2016 年 5 月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<b>【学位授与方針】</b> 理工学研究科では高度な専門知識を持ち、21 世紀のグリーン・サステイナブル社会に貢献できる人材の養成を目指している。学位授与にあたっては、修士課程では幅広く活躍できる高度な専門的職業人として活躍できる見込みであり、かつ以下の知識・態度・能力を獲得したと判断できる者に学位を授与する。 1. 専門分野において高度な知識と技術を身に付けている。 2. 自分の研究内容を自分の言葉で語れる能力を身に付けている。 3. 真摯な態度で全体を俯瞰し、地球環境に配慮できる。 博士後期課程では、上記に加えて高度な企画力を持ち、自立して研究・業務を遂行できる技術者・研究者になれると判断できる者に学位を授与する。	
4.1 教育目標に沿った成果が上がっているか。	
①学生の学習成果を測定していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400 字程度まで) ※取り組みの概要を記入。 学生の学会発表、論文投稿、受賞等の研究実績件数を集計し、この情報を基に学習成果を測定している。総合的な学習成果測定については、教員の成績評価を用いている。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
4.2 学位授与 (卒業・修了認定) は適切に行われているか。	
①学位論文審査基準を明らかにし、あらかじめ学生が知ることのできる状態にしていますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【学位論文審査基準の明示方法】</b> ※箇条書きで記入。 ・大学院理工学研究科要項に学位審査基準を明示し、学生に周知している。指導教員は、学生に審査基準を伝え、当該基	

準を満たすように指導し、学位の質向上を図っている。	
<b>【根拠資料】</b> ※学位論文審査基準にあたる文書の名称および冊子等に掲載し公表している場合にはその名称を記入。 ・理工学研究科博士後期課程学位審査内規 ・大学院理工学研究科要項	
②学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。 ・専攻主任会議は、学位審査過程を運営管理し、学位授与状況（学位授与者数・学位授与率・学位取得までの年限等）を適切に把握している。 ・研究科教授会は、専攻主任会議においてまとめられた学位授与状況を確認・承認している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	
③学位の水準を保つための取り組みを行っていますか。	A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/>
（～400字程度まで）※取り組み概要を記入。 各専攻において、修士論文発表審査会を実施し、主査・副査は合否判定を実施している。その後、研究科教授会は、各専攻の合否判定結果を審議・承認している。各研究室においては、学位論文研究進捗報告会、グループミーティング等を定期的に行い、適宜、関連研究分野学会の研究会発表指導を通して、学位水準の質向上の取り組み努力を継続して実施している。	
④学生の就職・進学状況を研究科（専攻）単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
<b>【データの把握主体・把握方法・データの種類の等】</b> ※箇条書きで記入。 ・各専攻、各研究室は、キャリアセンターと連携し、大学院生の就職・進学に関わる進路状況を適宜適切に把握している。 ・毎年度、定期的に進路調査を実施している。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における 2015 年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等（必須項目）

※（1）および（2）の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。

・大学院進学率の適正値を確保し、大学院強化の礎を築く施策を計画・実施する。
---------------------------------------

**【この基準の大学評価】**

<p>理工学研究科における学生の学習成果の測定は教員の成績評価に依っているものの、研究科として学会発表、投稿論文数などを集計して成果測定を補完している。学位審査基準は大学院理工学研究科要項に明記され、学生に周知されている。学位審査は発表審査会を実施するとともに、研究科教授会において合否判定を審議し承認する形をとっており、専攻主任会議において学位授与状況を把握しているなど、学位は適正に判定され授与状況の把握が行われている。学生の就職・進学状況についても、キャリアセンターとの連携を通じて各専攻や研究室単位で適切に把握されている。</p>
---

5 学生の受け入れ

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

<p><b>【学生の受け入れ方針】</b></p> <p>理工学研究科では、その理念・目的に強い関心を持ち、地球環境保全と持続可能な豊かな社会構築に意欲のある学生を求める学生像としている。そのために各専攻では、多岐の分野にわたる専門を有する技術者・研究者を養成するために複数の入試形態を用意し、大学院教育を受けるだけの基礎学力が充分にあるかどうかを判定して学生を受け入れている。入試形態は、次の5つである。(1)一般入試 (2)学内推薦入試 (3)一般推薦入試 (4)社会人特別入試 (5)外国人学生特</p>
---

別入試 このうち(2)の学内推薦入試および(3)の一般推薦入試は、それぞれ学内および学外の成績優秀者を対象とし、第1回入試(7月に実施)において、筆記試験を免除して口述試験のみで選抜している。(1)の一般入試では、共通科目の英語と各専攻の専門科目の筆記試験と、口述試験で選抜している。第2回入試(2月に実施)において、修士課程は、(1)の一般入試、(4)の社会人特別入試、(5)の外国人学生特別入試 博士後期課程のみ上記に加えて(2)の学内推薦入試と(3)の一般推薦入試も行っている。また、(4)の社会人特別入試は、毎年度2回実施し、いずれも口述試験のみで選抜している。修士課程の試験では、筆記試験科目および口述試験の内容は各専攻の理工学基礎を重視したものになっている。博士後期課程では、修士課程以降の現在までの研究内容や研究遂行能力を見極めて可否を判定している。また、諸外国で教育を受けた結果、教育年限が16年に満たない者に対する大学院入学資格審査を別途実施している。

5.1 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

①定員の超過・未充足に適切に対応していますか。 はい いいえ

(~200字程度まで) ※入学定員・収容定員の充足状況をどのように捉えているかを記入。

6年一貫教育を目標として掲げ、構成する学部(理工学部・生命科学部)と連携し、定員確保に努めている。一方、学内推薦の人数は、学部での所属学科の二分の一以上の成績を有し、かつ、定員を超えないことと定め、学内推薦者数の適正化を図っている。また、学内推薦基準の透明化と優秀な学内学生の確保のため、学内推薦のGPAの基準を明示した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

定員充足率(2013~2015年度) (各年度5月1日現在)

【修士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	3年平均
入学定員	295名	295名	295名	—
入学者数	197名	180名	192名	—
入学定員充足率	0.67	0.61	0.65	0.64
収容定員	295名	590名	590名	—
在籍学生数	197名	376名	377名	—
収容定員充足率	0.67	0.64	0.64	0.65

【博士・研究科合計】

種別\年度	2013	2014	2015	3年平均
入学定員	22名	22名	22名	—
入学者数	3名	1名	1名	—
入学定員充足率	0.14	0.05	0.05	0.08
収容定員	22名	44名	66名	—
在籍学生数	3名	4名	5名	—
収容定員充足率	0.14	0.09	0.08	0.10

5.2 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。

①学生募集および入学者選抜の結果について検証していますか。 A B C

【検証体制および検証方法】 ※箇条書きで記入。

- ・学生募集および入学者選抜の結果については、研究科教授会において審議・検証を実施している。
- ・公平性の確保およびグローバル化促進のため、英語の入試科目としてTOEIC外部試験を導入した。

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

・特になし

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・学生の進路設計指導を充実させ、学生の満足度を向上し、かつ大学院進学率の適正值確保を目指す。

**【この基準の大学評価】**

理工学研究科は学部と連携した6年一貫教育を掲げ、修士課程の在籍学生数は収容定員の65%前後を推移しており、研究科長インタビューによると2017年度入試から英語外部スコアを利用する入試を導入するなど、未充足に対する適切な対応が行われている。一方で、博士後期課程の収容定員充足率は1割程度に止まっており、一層の対応が必要なものと思われる。

**6 学生支援**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

6.1 学生への修学支援は適切に行われているか。

①研究科(専攻)として外国人留学生への修学支援について適切に対応していますか。	A <input checked="" type="checkbox"/> B C
(～400字程度まで) ※外国人留学生への修学支援に関する取り組みの概要を記入。 国際会議発表・論文作成などの各種研究活動を支援する制度を継続的に実施している。グローバル教育センターと協働して、留学生の受け入れ体制を整備してきた。	
<b>【根拠資料】</b> ※ない場合は「特になし」と記入。 ・特になし	

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・特になし	

(3) 現状の課題・今後の対応等 (任意項目)

※(1)～(2)の内容を踏まえ、現状の課題および今後の対応等について箇条書きで記入。課題がない場合は「特になし」と記入。

・各種支援制度について、IIST等、新たな入試経路で入学する9月入学生についても4月入学生と同様の支援が行えるよう、支援制度の改革を果たす。  
・グローバル教育センターと連携して、留学生を支援する体制を整備する。  
・専攻主任会議において留学生の修学状況を調査検討し、教員間、大学院係間の情報共有を実施し、適宜適切に留学生に対する指導支援策の検討・実施を進める。

**【この基準の大学評価】**

理工学研究科ではグローバル教育センターとの協働による留学生受け入れ体制整備を進めるとともに、IISTなど新たな入試経路で入学する学生についての支援制度改革が予定されている。専攻主任会議において留学生の修学状況調査を進めることが予定されるなど、留学生の修学支援について多様な検討が進められているものと評価できる。

**7 内部質保証**

**【2016年5月時点の点検・評価】**

(1) 点検・評価項目における現状

7.1 内部質保証システム(質保証委員会)を適切に機能させているか。	
①質保証委員会は適切に活動していますか。	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
<b>【2015年度質保証委員会の構成、開催日、議題等】</b> ※箇条書きで記入。	

- ・2015年度理工学研究科質保証委員会を各専攻1名、計8名の構成員により構成した。委員会の開催状況を以下に示す。
- ・2015年12月18日(金)：委員長選出、質保証委員会の役割・活動、委員会体制
- ・2016年1月26日(火)：質保証委員会による点検・評価・提言（メール審議）
- ・2016年1月29日(金)：2015年度末報告
- ・2016年2月26日(金)：2015年度末報告書の作成
- ・2016年3月3日(木)：2015年度末報告書の最終確認（メール審議）

(2) 特記事項

※上記点検・評価項目における2015年度新規取り組み事項および前年度から変更や改善された事項等について、箇条書きでそれぞれの概要を記入。ない場合は「特になし」と記入。

内容	点検・評価項目
・教員の年齢構成の適正化、大学院進学率増加、TOEIC受験者数増加の提言があった。	

【この基準の大学評価】

理工学研究科ではメール審議を含め、2015年度においては年度後半に5回の質保証委員会が開催され、研究科として質保証委員会による活動が機能している。

【大学評価総評】

理工学研究科では2012年度認証評価における工学研究科に関する改善計画（報告）書で指摘のあった、博士後期課程におけるコースワークの充実に関しては、2015年度までに検討が進められ、2016年度に新科目が開設されるなど、改善が確認された。理系の研究科の改廃、設立経緯などの影響もあり教員組織面ではやや年齢が高いなどの課題を抱えているものの、教員の新規採用などにより改善されていくものと期待される。教育のグローバル化に関しては、十分な実績があり、またIISTが2016年度設置予定である等、他研究科のモデルともなりうる。一層の入学経路多様化などにより収容定員に対する充足率がなお高められていくことが合わせて期待される。